



栄光園だより
第123号
2021年4月30日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町3組
〒874-0904 電話 (23) 2827
<http://www.eikoen.jp/>
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

自立支援について

理事長 江口 敏一



人と関わる仕事はすべて自立支援

社会福祉法人栄光園の事業目的は、福祉ニーズを有する利用者の尊厳を大切に「自立支援」であり、その支援の姿勢は「キリストの愛と信仰」の理念であると法人の定款第1条に記されており、

人の支援にかかわる事業は、身体的な支援であれ、教育的な支援、生活支援、経済的な支援、すべて自立支援ではないかと考えております。この支援においても常に、何のために、どうして、どのようにとそを目指すべき方向性とその目標設定を考えざるをえません。自立支援を考えると、関わる一人ひとりの人生の目的と人生行路に寄り添わなければならないと思えるからです。

乳児院での自立支援

乳児院について申せば、どのようにに養育していても子どもたちは3歳までには必ず退所します。実の親の元、里親家庭、児童養護施設、行先は異なろうと必ず出

ていくのです。この短期間での養育で、目標をどのように設定し、どのような姿勢で子育てすれば目標に達するの迷うところがあります。

「三つ子の魂百まで」という言葉をお聞きの方は多いと思います。3歳までの経験が、成人し高齢になり、人生を全うするまでの私たちの生き方に大きく影響をもたらす事実を体験的にも私たちは知っており、乳児院が、人生で記憶に残らない部分での子ども自立支援とはと考えると、その中心は愛着形成(アタッチメント)であろうと思われ、自分を守る特定の人の関係形成が子どもの精神的な安定にとつととても大切だと言われております。施設での生活が短期間であり、環境の変化が訪れようと、濃い愛着形成は愛を学習する機会なのです。フランスの作家サンテグジュペリが「星の王子様」の物語で「肝心なこととして目に見えない」と語っている意味は大きいと考えています。

人は、神様の愛の傑作である故、全介助

の状態で誕生します。他の哺乳動物が、誕生後1時間程度で自力歩行し、授乳し、意思疎通の発声ができるのに比べ、人はそこに到達するまでの約1年を特別な愛の中で育つようにされているのです。自然環境・生活環境・接する人的環境などの子育て環境は赤ちゃんにとって全て初体験の連続ですが、あなたがたかさとやさしさの中で過ごしていただきたいのです。

愛着の中の自立にも二つの側面があります。個人化(インディビデュアライゼーション)と分離(セパレーション)です。個人化とは、自分で自分の身のまわりの世話ができるようになるということ。食事や排せつ、着脱衣など、さまざまな生活上のことが考えられます。分離とは、お母さんから別れる、離れる、要するに巣立つということ、その背景には、母親をひとりの人間として認め、もはや母親とは一体ではないのだとする立場ももてるということ、

児童養護施設での自立支援

多くの子どもたちが愛される体験少なく入所してきます。これは、出産し子育てする親がどのように子育てしなればならないか、愛するということが大切で、それはどのようにすることなのか、わがからずに出産に至ってしまった経緯が多いと感じます。病気や障害をお持ちの方も含め、妊娠・出産前教育の決定的な不足です。

多くの子どもが子育ての手順を踏んで育てられておりません。その手順は大切に、愛され、受容された経験に続き、正しさが子どもに受容されます。別の表現をすれば、やさしさ・あなたかかさの次に正しさが受け入れられるのです。やさしさ・あなたかかさのない環境ではいくら正しいことであっても学ぶことを拒否してしまいます。これは、子どもの世界だけでなく、家庭教育機関、一般社会でも共通していることは

皆さま実感しておられるでしょう。また、支援する姿勢も問われます。支援には、支援する側と支援される側が存在します。両者は対等ではありません。支援する側が仕える姿勢で臨まなければ、上から目線となり、相手に受け入れられませんが、仕える姿勢の根柢は、対する相手「神様の愛の傑作」と認識することです。

方向性を示す児童憲章

第二次大戦後、日本のこれからの担うのは、子どもたちだ。資源のないわが国では、戦後の復興とこれからの社会を担う上で、人的資源こそ最も大切だとの考えのもと、1951年5月5日に児童憲章が制定されました。

今日よりも子育ての到達目標が明確であり、実現に向けて取り組むべき方向性を示していると考え、私たちは毎回職員会議では唱和しております。そして、子育てのゴールを最後の章12の「すべての児童は、愛とまことによって結ばれ、よい国民として人類の平和と文化に貢献するように、みちびかれる。」としております。

※児童憲章全文を次ページに掲載しています。



新任者あいさつ

社会福祉法人栄光園ではこの春6人の新しい職員を迎えました。代表して3人のあいさつを掲載いたします。



児童養護施設 保育士 黒田 亜海



栄光園だよりをお読みの皆様、初めてご挨拶をさせていただきます。今年度から児童養護施設にて勤めます黒田亜海と申します。4年間福岡で幼児保育を学び、出身県である大分に就職を致しました。海温泉、カフェ巡りが好きな私にとって別府市は憧れの地であり、日々これから始まる新生活への期待と新社会人となる不安を胸に過ごしています。私のふるさとは海はなく、川や緑の多い地域でしたので、ふと見上げると広がる別府湾に新天地であるこの場所から頑張っていこうと気が引きまします。その反面夕焼けと月が入れ替わる時間に海岸沿いを散歩することは私にとって心の癒される特別な時間であり、名前にも入っている「海」を身近に感じることができ嬉しく思えます。

することもありました。その経験を通して、いかにその中で日常を楽しむことができるかを子どもたちと一緒に考えていくことが私のできることだと思っています。

桜がまだ蕾の頃に始まった栄光園での研修期間を通して、学生から社会人へと心構えや行動に足りていない部分を多く実感しましたが、一生勉強という私の学びへの執着を大切に、ここで人として成長していきたいと思っています。至らない点もあるかとは思いますが、皆様今後とも宜しくお願い致します。



乳児院 保育士 木下 紗矢香



私の長所は努力家ということですが、小学1年生の時病気で半年間部活に参加することができませんでした。半年後から入部し、他の部員より遅れはありましたが、レギュラーメンバーになるため部活を休まず、粘り強く最後まで諦めずに基礎練習に励み、レギュラーメンバーになりました。そこで、努力は身を結ぶということを学びました。努力家という長所を活かし、初めてのことがばかりですが、子どもたちと一緒に成長できるように頑張りたいです。

私たちが栄光園乳児院を志望した動機は、実習をさせていただいた際に職員の方々の温かい雰囲気の中で声掛けの仕方等を学び、私自身、自信を持って実習することができました。また、摂食指導のように個々に応じた指導を行っていることに魅力を感じました。私も一人ひとりに寄り添った関わりを持って成長していきたいと思っただけです。

今後に向けての抱負は、私は「千里の道も一歩から」という言葉を大切にしています。自分の目標を達成するために小さな



児童憲章

- われらは、日本国憲法の精神にしたがい、児童に対する正しい観念を確立し、すべての児童の幸福をはかるために、この憲章を定める。
児童は、人として尊ばれる。
児童は、社会の一員として重んぜられる。
児童は、よい環境のなかで育てられる。
1 すべての児童は、心身ともに健やかに生まれ、育てられ、その生活を保障される。
2 すべての児童は、家庭で、正しい愛情と知識と技術をもって育てられ、家庭に恵まれない児童には、これにかわる環境が与えられる。
3 すべての児童は、適当な栄養と住居と被服が与えられ、また、疾病と災害からまもられる。
4 すべての児童は、個性と能力に応じて教育され、社会の一員としての責任を自主的に果たすように、みちびかれる。
5 すべての児童は、自然を愛し、科学と芸術を尊ぶように、みちびかれ、また、道徳的心情がつかわれる。
6 すべての児童は、就学のみちを確保され、また、十分に整った教育の施設を用意される。
7 すべての児童は、職業指導を受ける機会が与えられる。
8 すべての児童は、その労働において、心身の発育が阻害されず、教育を受ける機会が失われず、また、児童としての生活がさまざまな形で十分に保護される。
9 すべての児童は、よい遊び場と文化財を用意され、わるい環境からまもられる。
10 すべての児童は、虐待・酷使・放任その他不当な取扱からまもられる。あやまちをおかした児童は、適切に保護指導される。
11 すべての児童は、身体が不自由な場合、または精神の機能が不十分な場合に、適切な治療と教育と保護が与えられる。
12 すべての児童は、愛とまことによって結ばれ、よい国民として人類の平和と文化に貢献するように、みちびかれる。

制定者：児童憲章制定会議（内閣総理大臣により招集。国民各層・各界の代表で構成。）



青山保育所 保育士 松本 真耶加

別府大学短期大学の初等教育科を3月に卒業して、今年度から青山保育所で働くことになりました。松本真耶加と申します。
子どもが大好きなので、これから毎日子どもたちと関われると思うととても嬉しです。私は、小学生の頃から大学生まで、約10年間以上パドミントンを続けてきました。パドミントンを10年間続けてきて学んだことは、諦めずに努力をしていくことや、それを継続していくことの大切さを知ることができました。この経験を生かして、これからも何事にも諦めずに努力し続けることを忘れず、大切にしていきたいと

思っています。

また、運動など体を動かすことがとても好きです。自分の好きなことを生かして、子どもたちと園庭で元氣いっぱい走り回って遊ぶことで、たくさん体を動かして遊ぶことの楽しさを伝えていきたいと思えます。そして、子どもたちとコミュニケーションをたくさんとり、一人ひとりの個性や好奇心、思いを大切に、それを受け止め寄り添っていきたくと思っています。また子どもたちだけではなく、保護者ともコミュニケーションをたくさん取り、悩みや不安に寄り添い、頼ってもらえるような保育士を目指していきたいと考えています。

子どもたちが毎日、「保育園が楽しい」「また明日も行きたい」と思ってもらえる環境を作っていけるよう、一生懸命努めていきたいと思っています。

子どもたちの成長を見守りながら、様々な経験を通して、自分自身も素敵な保育士になれるよう成長していきたいと思えます。子どもたちの笑顔をたくさん引き出せるように頑張りますので、これからよろしくお願いいたします。

児童養護施設



マツモトホーム
ホーム長
藤本 一明

新たな「挑戦」

地域小規模養護施設から本園へ

今年度よりマツモトホームでホーム長を

させていただくことになりました、藤本と申します。前年度までは地域小規模養護施設ノマチホームで5年間ホーム長を勤めさせていただいております。

当園では2016年4月より地域小規模養護施設ノマチホームを開設し、中高生男子児童のホームとして新しい生活がスタートしました。開設して間もなく、大分・熊本の本地震があり、本園での避難所生活となりました。落ち着いたと思いきや、またノマチホームに戻りましたが、またすぐに余震のため本園へ避難することになるなど、思い出深いスタートとなりました。

その当時在籍していた児童らも、ほとんどの児童がこの5年間で社会へ旅立ち、新たな場所で新生活をスタートしています。私も毎年児童らの成長を目の当たりにして、毎年自分を奮い立たせて、児童らへの支援を行ってまいりました。

今年度からは本園に戻り、幼児から高校生までの女子児童が在籍するマツモトホームでホーム長を行うこととなり、自分にとっては初めて女子児童のホームで勤務することとなります。これまでは男子児童への支援でしたので、同性として自分の経験を伝えたり、経験したからこそ客観的な視点から児童らに支援を行ったりすることが出来ました。

ところが、今年度から勤務させていただくマツモトホームでは、思春期真っただ中の女子児童への支援となり、自分自身経験したことのない児童らの言動や考え方を理解し寄り添い、これから社会へ旅立ちとする児童へ異性の職員として支援をしていかなければなりません。その中には精神疾患を抱え、社会へ旅立つには大きな不安を抱えている児童もいます。ですから、私自身もこれからは新たに勉強と「挑戦」の毎日であり、マツモトホームの児童らが私自身の先生になると考えています。

マツモトホームの児童らが社会に出たときに、「マツモトホームで良かった」栄光園

で生活が出来て良かった」と思ってもらえることが出来たら、私たち職員にとっては、何事にも代えがたいやりがいにつながるのではないかと感じています。久々に本園で勤務させていただきまず、不慣れな点もあろうかと思えますが児童らの日々の変化や取り組みに対して、正面から向き合い、日々の成長を感じ取りながら精いっぱい支援を行いたいと思いますので、よろしくお願い致します。



ノマチホーム
ホーム長
帆秋 堅太

神様が私に与えてくださった試練!!

今年度より野口保育所から異動してまいりました、帆秋堅太と申します。

私は20歳に社会福祉法人栄光園に就職をして3年間野口保育所・5年間児童養護施設・1年間野口保育所で勤務し、今年4月から地域小規模ノマチホームのホーム長として児童養護施設に戻ってまいりました。ホーム長という大役を担うという不安でいっぱいですが、同じホームの職員と力を合わせて精一杯頑張っていきたいと思っています。

保育園で学んだことは、たくさんありますが、その中でも保護者との関わりの大切さを知りました。昨年度は、卒園の年の4・5歳児と一緒に1年を共にしてきました。異動して1年目の男性保育士が担任となり何かと不安になった保護者の方もいらっしやうたかもれません。保護者の思いや子どもの気持ちを受け止めながらその子にどのように関わって行くことが最善なのかを考え、試行錯誤してまいりました。その経験を児童養護施設でも活かして

子どもを思う保護者の思いを受け止めながら子どもたちが幸せになれるように支援を行っていきたくと思っています。

今年度のノマチホームは、小学校2年生から高校3年生までの男児5名で生活がスタートしました。

年齢差があるホームでもあるため、お互いが助け合い、協力し思いやりのある子どもたちであってほしいと願っています。そのためにも、職員が日頃からお手本となりお互いが助け合い協力して思いやりを持って子どもたちに接していきたくと思っています。

その中でも中学3年生と、2名の高校3年生が、将来の進路を決める大事な時期を迎えます。一人ひとりの子どもたちが希望している進路に進めるよう職員一丸になって支え、子どもたちと一緒に悩みながら1年間を乗り越えていきたくと思っています。

コロナ禍であり、県内も不安な状況は日々続いていますが、子どもたちにとって楽しい1年間であったと思えるようにしていきたいと考えています。

グレースホームの集い

栄光園を巣立った卒園生、栄光園を支援して下さる皆様、そして、ここで生活している子どもたちや職員の集いの場として、「バーベキューの夕べ」を例年8月に行ってまいりました。昨年は、新型コロナウイルス感染拡大の状況下で中止とさせていただきましたが、今年度は、8月8日(日)17時より園庭にて開催します。ただし、感染状況によっては、日時の変更や中止の可能性もありますのでご了承ください。事前にお電話をいただければ助かります。もちろん参加費は、無料です。お志等も固く辞退させていただいております。



卒園生を送り出して思うこと

ウエストホーム
ホーム長 大野 将也

ウエストホームは高校生と幼児が生活しているホームで毎年のように高校3年生を送り出しています。

今年も4歳から14年間栄光園で生活していたDくんが4月に社会へと旅立ちました。昨年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、軒並み行事が中止となり、外出制限など様々な制限をしなければいけなくなり、彼にとつて栄光園で過ごす最後の1年間が口惜しい1年間だったのではないかと思います。

私たち職員もこれまでに経験したことのない生活環境となり戸惑

うこともありましたが、コロナ禍で子どもたちのためにどのように思い出づくりが出来るのかを考え、例年ならば皆で外食に行ったりするところをテイクアウトの食事を用意し、いつもとは違う夕食を囲んだり、園内でBBQをしたりと例年とは違う形の行事を出来る限り実施しました。

その中でも卒園生を送る会は、規模を縮小しながらも実施することができ、昨年度唯一の栄光園の全体行事となりました。

送る会では、新品のスーツを身にまとい、職員や子どもたちの前で、緊張しながらも堂々と挨拶をしているDくんの姿を見て、成長を感じると共に、いよいよ社会人になるんだなと実感し寂しさも感じました。

毎年のように子どもを送り出していますが、今年も新型コロナウイルスの影響で様々な制限や新しい生活様式がある中で、戸惑いや不満を持ちながらもこの一年をな

んとか乗り越え、無事に卒園を迎えることが出来たことに胸をなでおろしています。私たちの日々の支援にゴールはありませんが、毎年卒園を迎える子どもを送り出した時には、一つの節目を感じます。また、卒園した子どもが立派になった姿で帰って来てくれた時には、これまでの支援が報われた気分を感じることが出来ます。Dくんの立派になった姿を楽しみに待ちながら、これからも子どもたちの支援に邁進してまいります。



乳児院

統括グループリーダー

得能 三志郎

栄光園の桜が満開となり、花の便りが聞かれる季節となりました。

コロナウイルスが、まだまだ終息せず、不安な日々が続いていますが、引き続き職員一丸となって、施設内の消毒や感染予防策の徹底に努めてまいります。

さて乳児院の子どもたちは3月の終わりから4月の初めにかけて3人が退所し、4人が入所しました。最近の傾向として措置児童の減少に対し、一時保護やショートステイ、レスパイトやトワイライトを利用する子どもたちが増えてきています。地域支援では、助けを必要としているご家庭の手

助けとなれるような多機能化や機能強化に力を入れることも乳児院の役目であると改めて感じています。

今年度も子どもたちが安心安全に暮らせるように、また職員一人ひとりが働きやすく、やりがいを感じられるような施設になれるように頑張っています。

コロナ禍ということもあり、園外保育に出かけることが難しく、院内や園庭、グラウンドなどで活動することがほとんどになりました。気候も暖かくなり敷地内を散歩すると、桜やチューリップ、パンジーなどたくさんのお花を見る機会が増えました。子どもたちは保育者が声をかけなくても、お花が咲いている所に近づいていき、「お花、お花と指差しをしたり、触った



り、タンポポなどの野花を摘んでアクセサリーにしたりと自然に触れて遊んでいます。花を見ている時はみんな笑顔になり、子どもも職員も心の癒しになっています。

乳児院では施設長を中心にたくさんのお花や植物を植えるように心がけてきました。今後も四季折々の植物を乳児院の周りに植えていく予定です。

しばらくの間は、地域に出かける機会が少ないですが、できる限り子どもたちが満足できるよう、グループ間や多職種間で連携を取りながら、今だからできる「体験や経験を考えていきたい」と思っています。

青山保育所

心情、意欲、態度

主任保育士 二宮 孝介

地域の中学校に出向き中学1年生を対象に保育士の仕事について、また、保育士ということに限らず働くということについてお話する機会がありました。

お話の合間にパネルシアターやエプロンシアターを披露しました。生徒さんの反応は良かったです。道具をどのようにして作っているのかという部分で「そんなところまで保育士さんが作るんだ」と、そういう作り方を「作るんだ」と、驚きの声が続いてきたことが印象的でした。確かに保育士は衣装や大道具、手作りおもちゃ、料理と様々なものを作ります。保育士の個々のスタイルを作り上げていくものは学生時代にどのような経験をしたかという部分が大きいと思います。

子どもたちも保育園で様々な遊びを経験します。その子たちが大きくなってからの遊びが印象に残っているかはわかりませんが、保育園の時期にどのような遊びをしたかということと同時に、遊びに夢中になって取り組んだり、最後までやり遂げようとしていたり、うまくいかないときでももう一度チャレンジしたりしてみようという気持ちや意欲、態度も身につけることが大切です。

私たち保育士は子どもたちが楽しいと思うことや、集中できる遊びの機会を用意したり、子どもたちが見つけた面白い遊びを続けたり、発展できるような環境を整えたりすることを心がけて保育に取り組みてまいります。



遊びを通して

保育士 松本 真人

3歳児きりん組のお友だちは、部屋にひらがなやかたかなの表があり、自分の名前や身近にある物の名前を探して遊んでいます。また、線つなぎやキャラクターの塗り絵などを使って机に座って遊ぶ時間も設けています。最初の頃は少し遊んだら他の遊びに行ったりと集中できる時間は短かったのですが、文字をつかった遊びの時に子どもたちの名前を使ってみたり、座って遊ぶ塗り絵などでは子どもたちの好きなキャラクターを取り入れたりすることで、子どもたちが遊びに興味を持てるようになり、今では長く集中して遊んでいます。こういった遊びを通して子どもたちの想像力や集中力を育てていきたいです。



小学校に体験入学に行ったよ

保育士 平田 留美子

小学校では1年生の子どもたちが、お道具箱の中身を見せてくれたり、小学校クイズをしてくれたり、ランドセルを背負わせてくれたりしました。保育園の子どもたちは少し緊張しながらも、お道具箱の中身やランドセルに興味津々の様子でした。この日お世話してくれた1年生の中には、青山保育所の卒園児も何名かいました。優しくテキパキとお世話をする姿を見て、1年

後は5歳児のお友だちも同じように年下の子のお世話するのかなと楽しみと思えました。この日の体験で小学校への進学により期待が高まったようでした。



おいしくできましたよ!

保育士 荒金 由妃

ばんだ組1・2歳児のお友だちはチョコチップクッキーを作りました。前日にチョコチップを見せると子どもたちも大興奮で、クッキーづくりへの期待を高めながら作ることができました。

今回で何度目かのクッキングで協力も上手になり、混ぜる人、ボウルを持つ人、材料を入れる人、とテールブルごとに作ることができました。粉から少しづつ生地になっていく様子を、顔を近づけながら興味深そうに見ていたり、匂いを嗅いで「おいしそ〜」



とつい手が出そうになったりする姿もありました。1月でのお餅を丸める経験をしてきたからか、丸めて形を作るのもお手のもので、たくさんクッキーを作ることができ

卒園式がありました

主任保育士 二宮 孝介

3月27日(土)に卒園式がありました。今年度は19名のお友だちが卒園し、小学校や幼稚園へ進みました。園長先生から卒園証書をもらうときには少し緊張気味の子どもたちでしたが、これまでの練習の成果がでて上手に受け取り、お家の方へありがとうのお礼の言葉とともに証書を手渡すことができました。今年も新型コロナウイルスの影響で参加する保護者の方の人数を制限したり、マスク着用や手指消毒の協力をお願いしたりした中での開催となりましたが、無事に子どもたちを送り出すことができて今はホッとしています。卒園した子どもたちが今後大きく羽ばたいて行くことを願っています。



お願ひした中での開催となりました。子どもたちが無事に送り出すことができて今はホッとしています。卒園した子どもたちが今後大きく羽ばたいて行くことを願っています。

野口保育所

主任保育士 末吉 佳奈

新しい年度が始まりました。今年度も職員一同身を引き締め、資質向上を目指し子どもたちが安全で楽しい保育が出来るようにしていきたいと思えます。今年度もよろしくお願い致します。

少しずつですが前年度の2月からの行事の様子をお伝えします。

まめまき

今年度は124年ぶりに2月2日が節分! 保育園も2日に節分を行いました。今年度は5歳児と一緒に由来の話をみんなの前でしたり、鬼に扮した5歳児と担当保育士と豆まきをしました。それで終わると思いきや、保育士の扮した鬼が登場し、泣いてしまいう子やにこで豆まきをする子もいました。「鬼は〜そと! 福は〜うち!」と豆をたくさん投げ、今年も体の中にある鬼をみんな退治することが出来ました。



ひなまつり会

3月3日に今年度は担当保育士と5歳児が作った衣装を全クラスが着てひな祭り会を行いました。由来の話を聞いたり、各クラスが作ったひな人形を紹介しました。給食は、換気しながら全クラスで食べ

ました。衣装を帰るまで着る子どももいて、喜んでいました。



避難訓練



3月に総合避難訓練を行いました。毎月行っている避難訓練ですが、消防署の方に来てもらうとまた違う雰囲気の中、消火の仕方など教えてもらい、改めて学びなおしました。消防車も来ていたので、近くで見せてもらい、子どもたちは大喜びでした。

お別れ遠足

1年間一緒に過ごしたお友達や保育士と一緒に別れ遠足をしました。天気は、あいにくの雨で園内遠足にはなってしまいました。風船やボール、お絵かき、園内を歩いたりして各クラス遠足を楽しみました。



お別れ会

今年のお別れ会は、卒園児と在園児がペアになって遊びのコーナーで塗り絵をしたり、踊ったり、ブロックで遊んだりと一緒に遊びました。会の中では、卒園する子どもたちへのインタビューや入所した時の写真を紹介したりして楽しい雰囲気でした。この日は、給食の先生が作ってくれたお弁当を持って卒園児は好きなクラスに行ったりして食べ、良い思い出になったようです。

卒園式

3月27日にコミュニティセンターにて、家庭2名の保護者が来れるように、手指消毒や換気、マスク着用などコロナ関係を考えて、無事に令和2年度の野口保育所の卒園式を行うことが出来ました。当日は、成長した子どもたちの姿に感動し涙が出る中、16名の子どもたちが元気いっぱい野口保育所を巣立って行きました。幼稚園・小学校に行っても元気に頑張ることを願って、応援したいと思います。



「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」

(テサロニケの信徒への手紙一 5章16〜18節)
別府不老町教会伝道師 尾崎 二郎

今日の聖書の言葉は、イエス様から私たちへの励ましの言葉です。ところで、気負うこともなく虚勢を張るでもなく、ありのままに、いつも喜び、どんなことにも感謝し続けることは、果たして私たちが人間に可能なのでしょうか？

この疑問に対する答えは前号で紹介した通りです。つまりそんなことは無理なのです。ですからイエス様は「涙と共に種を蒔く人は、喜びの歌と共に刈り入れる」と言われて、悲しむ私たちを内側からも励ましておられるのです。

では「絶えず祈りなさい」というのはどうでしょうか。このことは、私は行い続けていけるように思います。かつて私は或る乳児院に勤めていたことがありますが、その乳児院では毎日、朝昼晩の食事の前に必ず、皆で「♪天のお父さまここに頂くご飯を感謝します♪」と一節歌ってから頂いていました。

「祈り」というのは、天にいる私たちの父なる神と、私たちとの応答のよいうなものです。「父なる神」は姿が見えないからと言って、応答出来ない相手ではありません。例えば「いつくし

み深き」という有名な讃美歌では「いつくしみ深き友なるイエスは、祈りに応えて慰めたまわむ。祈りに応えていたわりたまわむ」と歌われています。祈ることのよさは、「絶えず祈り」続けるに当たって、私たちが時と場所とを選ぶことが出来るということでしょう。例えば悲しい時には、私たちが独りになって部屋にこもって祈ることが出来ます。また時には友達と共にその悲しみを分かち合いながら、共に祈り合うことも出来るでしょう。

そして喜びの中にある時には、その喜びを大勢で分かち合いながら祈ることも出来るでしょうし、或いは一人でイエス様に感謝の祈りを捧げることも出来るでしょう。私たちが、このように折々に祈り続けることによって、ありのままの自分を保ち続けることが出来るようになるでしょう。

様々な対人関係の内にある中で、私たちが時に喜怒哀楽の感情の渦中で揺り動かされることがあるかも知れませんが、そんな時は今日の聖書の言葉を思い起こして、一息ついて父なる神に向かって祈ってみればよいと思います。

地域支援活動 集いの場くるみ

地域支援担当 原田 康子

1月 凧あげをしよう

1月のくるみは、コロナウイルスの感染拡大で緊急事態宣言が出されている地域がある中ではありましたが、感染予防に配慮しつつ凧あげをしました。久しぶりに子どもたちと活動することができとても楽しかったです。

当日は、好天に恵まれ暖かな陽さしの下皆元気いっぱい走り回って凧を上げていました。空高く上がっている凧に、乳児院の子どもたちからも歓声が上がっていました。

冬のさなかの活動なので寒かった時のために、グラウンドの隅にかまどを準備して暖を採れるようにしていました。暖かかったので手を暖めに来る子どもは少なかったですが、火があることでなんとなくほっとする空間になっていたように感じました。



活動する中で、子どもたちから「大きい凧を作りたい」という意見が出て急遽一回り大きい凧を作ることにしました。材料の竹ひごの長さも足りなかったのですが、ストローを繋げて長い竹ひごの代わりになるものを作り、何とか大きな凧を完成

させることができました。子どもの意欲と大人の知恵の融合の賜物です。

子どもがやりたいという思いを持った時、その思いを応援する大人の姿勢の大切さを感じました。私たち大人は、いつも子どもたちの応援団であり続けたいという思いを強くした今回の活動でした。

2月 野菜で絵の具を作ろう

2月は、講師として「あそびLAB(ラボ)の小田原さん」においでいただき、「野菜で絵の具を作ろう」の活動をしました。日頃は料理に使う野菜ですが今回は、絵の具づくりの材料となりました。ニンジン、ピーマン、赤大根、ビーツ、小松菜の5種類の野菜を使って絵の具づくりをしました。すりおろしたり、絞ったりして野菜の汁を抽出する過程で、野菜特有のにおいに「野菜くさい」と言いつつも、手を野菜の色に染め一生懸命野菜を絞っていました。

そして、出来上がった絵の具を使って塗り絵をしました。自分たちで作った絵の具で色を塗る待ちに待った瞬間、筆先に集中して一心に塗り絵を楽しんでいました。出来上がった作品は、自然の持つ優しい色合いの作品となっていました。

今回の活動を通して、野菜の色やにおい、また色の変化など新しい気づきがあったのではないのでしょうか。



3月 お花見コンサート

3月は、満開の桜を眺めながらのお花見コンサートを行いました。あいにくの天候となり予定していた満開の桜の下でのコンサートとはなりませんでしたが、感染対策を講じつつ、ホールで満開の桜を眺めながら心地よいギターの音色と穏やかな歌声を楽しむことができました。子どもたちが初めて聞く歌も多かったと思いますが、昭和の世代の私には懐かしい歌をたくさん聞けて幸せな時間となりました。コンサートで曲を披露してくださった齋藤さん、森清さん、林さんの3名の方々ありがとうございました。



また、この日は、子どもたちのコンサートの後、第2部として地域の方々においでいただき音楽を楽しんでいただきました。昭和の名曲に昔を懐かしみながら静かにコンサートを楽しんでいただきました。そして、最後にみんなで「ふるさと」を歌ってコンサートを終えました。生の音楽の力を感じた活動でした。

くるみの活動を始めて2年が経とうとしています。お陰様で地域の子どもたちも少しずつ足を運んでくれるようになりました。これからも地域の子どもたちが集える場として、また地域の大人の方たちと交流できる場として皆様にご支持していただけるよう頑張っていますのでよろしくお願いたします。コロナ禍ではありますが、地域の方々と

社会福祉法人 栄光園

2021年1月～3月職員の採用・退職と4月新採用

採用

〈乳児院〉

芝崎 咲 (保育士) 1月付

高橋 和美 (看護師) 3月付

〈児童養護施設〉

森山 祐樹 (保育士) 3月付

4月採用

〈児童養護施設〉

石本 悠莉 (保育士)

黒田 亜海 (保育士)

姫野 昌子 (調理員等)

〈乳児院〉

木下紗矢香 (保育士)

〈青山保育所〉

阿部 菜月 (保育士)

松本真耶加 (保育士)

4月異動

〈児童養護施設〉

帆秋 堅太 (野口保育所より)

退職

2021年3月付

〈児童養護施設〉

横大路明子 (児童指導員)

京野 藤雄 (児童指導員)

奈須 琴海 (保育士)

萩尾 裕樹 (保育士)

三林 照美 (調理員等)

〈乳児院〉

松岡瀬里華 (保育士)

〈野口保育所〉

衛藤 久美 (保育士)

栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たち職員への励みに大変大きな力となっていることをいつも嬉しく思います。

児童養護施設の子どもの進学等を重点的に支援する目的で始めた「自立進学資金(栄光園ファミリークラブ)」の枠は上級学校への進学により社会で活躍できる領域を格段に広げる重要なアフターケアだと考えております。現在当園でも中高生が児童の7割を占めるようになりました。どうか子どもたちの未来にお力をお貸しください。よろしくお願いいたします。

栄光園をお支えいただいております皆様の上に神様の豊かな祝福がありますようお願いいたします。

【2021年1月1日より2021年3月31日まで】

賛助金

- 安達祥子様 別府市
- 安部道人様 大分市
- 岩田哲也様 大分市
- 上野貢一様 南さつま市
- 岡口文明様 大府市
- 小郷晶子様 別府市
- 真愛幼稚園様 別府市
- 立花旦子様 大分市
- 田原明紀様 白杵市
- 田原陽子様 白杵市
- 日本基督教団大分教会様 大分市
- 松本常圃様 別府市
- 山口産業(株)様 別府市

一般寄付

愛隣幼稚園様 大分市

一般社団法人椿様
いろは商事(株)様

太田佳子様 別府市

川本順平様 浜松市

後藤正勝様 別府市

首藤和子様 別府市

武生紘司様 熊本市

匿名様 別府市

友永尚子様 大分市

長野哲也様 豊後大野市

日本基督教団別府教会様 別府市

日本基督教団別府野口教会様 別府市

日本基督教団門司大里教会様 北九州市

福岡中部教会様 福岡市

府内産業(株)代表取締役社長平川浩行様 福岡市

豊和銀行従業員組合様 大分市

大分市

安東秀典様 大分市

梶原康弘様 大分市

辛島陽子様 別府市

堤峰子様 国東市

日本基督教団別府野口教会様 別府市

平川順子様 別府市

山川小百合様 中津市

山口香様 別府市

甘夏・お菓子・肉みそ 愛の里サンウィラ様 別府市

パン 石窯工房モコモコ別府店様 別府市

制服 伊東志保様 別府市

キリスト教DVD 伊東志保様 別府市

いのちのことは社通販課定期購読課様 伊東志保様 別府市

食品・玩具・衣類 エトウ商会様 別府市

本 大分県遊技協同組合様 別府市

肉・食事券 大住建販(有) 前原省吾様 別府市

パン 奥貞博・由美様 別府市

恵方巻き・ちらしずし 奥貞博・由美様 別府市

割烹館「幸喜屋」河野智幸・和江様 別府市

エレクトーン (株)三洋アルミ様 別府市

鉛筆 (株)留紙器工業所様 別府市

お菓子 (株)ハーモニーランド様 別府市

箸 (株)兵左衛門様 別府市

自立進学資金

- 安東秀典様 大分市
- 梶原康弘様 大分市
- 辛島陽子様 別府市
- 堤峰子様 国東市
- 日本基督教団別府野口教会様 別府市
- 平川順子様 別府市
- 山川小百合様 中津市
- 山口香様 別府市
- 甘夏・お菓子・肉みそ 愛の里サンウィラ様 別府市
- パン 石窯工房モコモコ別府店様 別府市
- 制服 伊東志保様 別府市
- キリスト教DVD 伊東志保様 別府市
- いのちのことは社通販課定期購読課様 伊東志保様 別府市
- 食品・玩具・衣類 エトウ商会様 別府市
- 本 大分県遊技協同組合様 別府市
- 肉・食事券 大住建販(有) 前原省吾様 別府市
- パン 奥貞博・由美様 別府市
- 恵方巻き・ちらしずし 奥貞博・由美様 別府市
- 割烹館「幸喜屋」河野智幸・和江様 別府市
- エレクトーン (株)三洋アルミ様 別府市
- 鉛筆 (株)留紙器工業所様 別府市
- お菓子 (株)ハーモニーランド様 別府市
- 箸 (株)兵左衛門様 別府市

特別物品寄付

- 小麦粉 (株)豊豫物産様
- お菓子 (株)ユーコー南的ヶ浜店様
- エレクトーン紹介 (株)和田組様
- お菓子 辛島泰子様
- 大根・ほうれん草 川本順平様
- お菓子 きっさはすのは様
- 食パン 銀座に志かわ17号店大明野店様
- お米・自転車 後藤正巳様
- 衣類 小林輝星様
- みかん 坂本長平味噌様
- カレンダー MR.JACKDEADWYLER様
- お菓子 ダイヤモンド(株)様
- みかん 高治香苗様
- 米 つばきラボ塩見泰美様
- 人参・大根 匿名様
- 野菜・衣類 匿名様
- パン 匿名様
- 図書カード 友永永平屋様
- 卵・椎茸・筍・ウド 西日本新聞様
- 二宮洋典(株)九州錦運輸様
- お菓子 日本恵の館様
- ぬいぐるみ等 山本宣雄様
- お菓子・紅茶 山本花織様
- タオル 和田菊美様
- たこ焼き 大鍛治光子様
- 制服 伊藤志保様
- お菓子 山口香様
- R1ヨーグルト 大分デリバリーセンター様
- 小中学習ポランティア 尾崎二郎様
- 安東秀典・井上せつ子・山口香様 WEST VILLAGE様
- 児童の散髪 Beauty MORE様
- 金曜学校 庄司宣充様
- ” ” 吉武二郎様
- ” ” 尾崎二郎様
- スポーツポランティア ティム・ニック様
- ハンドパード 三浦・北山・平川様
- 書道 荒金節子様
- 集いの場くるみポランティア 平川義文様
- ” ” 平川順子・小田原啓太様
- ” ” 齊藤正治・森清光様
- ” ” 林真二・梶谷和美様

招待・奉仕

編集後記

新型コロナウイルスの出現によって私たちの生活が一変いたしました。昨年度より学校の休校、外出制限など我慢の1年を過ごしました。行事に關しましてもグレースホームの集いやクリスマス祝会の中止など様々な楽しい行事が行えなくなりました。しかし、最近では新型コロナウイルスの感染のメカニズムがわかってきて、感染対策を講じつつ様々なイベントが徐々に開かれるようになってまいりました。ただ、最近では感染力の強い変異株の感染が広がっております。ワクチン接種など明るいニュースもありますが、収束のためには、今後一層の注意が必要になってきそうです。もう少し頑張ってくださいませ。

(原田)

苦情等相談窓口

*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。

tel.0977-23-2827
fax.0977-23-7520
mail eikoen@live.jp

賛助会員募集

年会費、一口千円、但し、何口でも、分割可。

ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務所は、別府市南荘園町3組です。

賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌「栄光園だより」を送付させていただきます。

郵便局での振込は左記までお願い致します。

口座名義 社会福祉法人 栄光園
口座番号 0193002120748